



●令和6年度：秋の研究会大会

すでに学会 Web サイトに掲載されています通り、令和6年11月30日(土)から12月1日(日)の2日間「令和6年度秋の研究会大会」がオンラインで開催されます。

■開催日

2024年11月30日(土)～12月1日(日)

■会場

オンライン開催 (ZOOM)

■発表申込スケジュール

- ・発表申込の締切：8月23日(金)
- ・閲読コメントの返送：9月10日(火)
- ・アブストラクト・カメラレディ原稿締切：10月15日(火)

■募集要項・発表申込書等の書類は、以下からダウンロードが可能となっております。

<https://www.color-science.jp/kentai2024/>

発表に関するご相談などがございましたら、お気軽に主査までご連絡下さい。

みなさまのご応募をお待ちしております。

(吉澤陽介 主査より：003)

●色彩データ・ライブラリについて

今年に入って、吉村耕治先生、城一夫先生を学会は失いました。お二人とも大学に籍を置かれた方で、在生中に作られ、保管されていた色彩教育の電子データは膨大なものであったろうと推測され、これらが先生の在世中に学会への寄贈が実現していれば、学会の色彩データ・ライブラリは充実したものになっていたと推測されます。

学会は、65歳以上の学会員に対し、データの生前贈与をお願いするシステムを構築することを提案します。

現在の色彩データライブラリは、私が寄贈した910データだけだと思いますので、日々充実させていくとともに、使いやすさも考慮する必要があると思います。

現在、一データ100円の均一価格となっておりますが、ページ数が容量で差別する方法を取るなどに変更するべきでしょう。

選択の手がかりはタイトルとpdf・pptxだけなので、内容が推定できる方策も考え、利用拡大のPRを考えてください。寄贈者あての利用状況の報告もあっていいでしょう。また、ライブラリを会員の増加に結びつける方策も検討する必要があると思います。

(永田泰弘)

●楊洲周延の錦絵の色

楊洲周延(ようしゅうちかのぶ)は、天保9(1838)年に高田藩、江戸詰の藩士の家に生まれ、歌川派の絵師たち、歌川国芳、歌川国貞(3代豊国)、豊原国周などに師事しました。絵師として活動が定着し始めたのは、明治10(1877)年頃からです。

作品は、文明開化の当時の様子を細かい描写で多く残されています。

開化錦絵の部数は非常に多く約300件の代表される錦絵、肉筆画、版本などの作品があるようです。

昨年12月10日まで開催された町田市国際版画美術館で、先述を証明するかのようには視覚で学べる、楽しめる、美しい楊洲周延の錦絵の展覧会を観る機会を得ました。

そこには、目を奪われるような鮮やかな色、赤(レンガ、垂れ幕、神社の提灯の色、着物など)、緑(野、地面、絨毯の色など)、紫(着物、洋装のドレス、軍服のズボンなど)、黒(明治の軍人などの服、馬車の屋根など)他、明治の濃く深みのある独特な色使いに魅了されました。一時期流行したドレス、バツル・スタイルの腰当てをしてデザインされたドレスの色や柄も、華やかで印象深かったです。

(瀧川優子)